

# 13 弥彦山

旧大潟町(上越市)  
【作詞・作曲者出身地】

♪作詞：小山 作之助(こやまさくのすけ) ♪作曲：小山 作之助(こやまさくのすけ)

歌碑所在地 彌彦神社ロープウェイ山道入口

明治34年(1901年)に、新潟市で開催された第一回共進会の折、特に新潟県が東京音楽学校に委嘱して作成されたと言われています。作詞作曲は旧大潟町(現：上越市)出身の小山作之助によるものとみられます。文部省制定小学校唱歌として広く愛唱されました。この作品の歌碑が彌彦神社へ奉納され、弥彦山ロープウェイへの山道入口近くに建てられています。



- 越路の国に名も高き 弥彦の山を見わたせば  
双嶺雲にそびえ立つ 貴く清きながめかな
- 前に渦巻く日本海 沖辺に浮ぶ佐渡ヶ島  
遙かに眉を引ききたるは 遠き陸羽の山々か
- 海風清く袖吹きて 浮世のちりも通い来ず  
思へばげにも御神の 宮居座します弥彦山



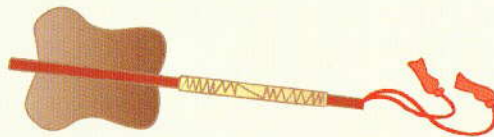
# 14 川中島

旧大潟町(上越市)／旧安田町(阿賀野市)  
【作曲者出身地／作詞者出身地】

♪作詞：旗野 十一郎(はたのじゅういちろう) ♪作曲：小山 作之助(こやまさくのすけ)

作曲者の小山作之助は旧大潟町(現：上越市)に生まれ、東京音楽学校(現：東京芸術大学)の前身である文部省音楽取調掛に入りました。卒業後も母校にとどまり、35歳で教授となりました。作之助は生涯で数多くの作曲を行いました。また、音楽教育への発展に力を注ぎ、日本教育音楽協会初代会長などをつとめました。「荒城の月」の作曲者である滝廉太郎の才能を見出して育てたのは作之助でした。

- 西条山は 霧ふかし  
筑摩の河は 浪あらし  
遙に聞ゆる 物音は  
逆まく水か つわものか  
昇る朝日に 旗の手の  
きらめくひまに くるくるくる
- 車がかりの 陣ぞなえ  
めぐる合図の 関の声  
あわせる甲斐も あらし吹く  
敵を木の葉と かきみだす  
川中島の 戦は  
語るも 聞くも 勇ましや



# 15 雪山讃歌

笹ヶ峰(妙高市)  
【京大ヒュッテ所在地】

♪作詞：西堀 栄三郎(にしほりえいざぶろう) 他 ♪原曲：アメリカ民謡

大正末から昭和の初期にかけ、毎年正月に京都大学の学生らがスキー合宿に集まった際にアメリカ民謡「オー・マイダーリン・クレメンタイン」の替え歌として歌ったのが始まりとされます。そして京大高山岳部歌として歌い継がれ、後年タークダックスが歌ったことで一躍有名になりました。妙高高原笹ヶ峰には「雪山讃歌碑」が建っています。

- 雪よ岩よ われらが宿り  
俺たち町には 住めないからに
- シールはずして パイプの煙  
輝く尾根に 春風そよぐ
- 煙い小屋でも 黄金の御殿  
早く行こうよ 谷間の小屋へ
- テントの中でも 月見はできる  
雨が降ったら めれればいいさ
- 吹雪の日には ほんとに辛い  
アイゼンつけるに 手がこごえるよ



※以下9番まで続く

## 県内各所

【歌詞の題材(県内各駅)】

吉田 信太(よしだしんた)

- |  |  |  |
|--|--|--|
| 37.<br>安田 北條 来迎寺<br>宮内すぎて長岡の<br>町は名だたる <b>ばな</b> の花の地<br>製油の煙そらにみつ | 40.<br>加茂には加茂の宮ありて<br>木の間の鳥居いと清く<br>矢代田駅の近くには<br>金津の滝の音たかし | 43.<br>おるればわたる信濃川<br>かかれる橋は万代の<br>名も君が代とときわにて<br>長さは四百数十間  |
| 38.<br>汽車の窓より西北に<br>ゆくゆく望む弥彦山<br>宮は国幣中社にて<br>参詣男女四時たえず             | 41.<br>十一年の御幸の日<br>かたじけなくも御車を<br>とどめ給いし松かげは<br>今この里にさかえたり  | 44.<br>川のかなたは新潟市<br>舟ゆく水の便よく<br>わたせる橋をかぞうれば<br>およそ二百もありとかや |
| 39.<br>弥彦にゆくは三條に<br>おりよと人はおしえたり<br>吾身は何も祈らねど<br>いのりは君が御代のため        | 42.<br>もみじは新津 秋葉山<br>桜は亀田 通心寺<br>わするな手荷物傘靴<br>はやこなるぞ沼垂は    | 45.<br>春は白山公園地<br>一つににおう梅桜<br>夏は涼しき日和山<br>鯛つる舟も目の前に        |

- |   |   |
|---|---|
| 46.<br>汽船の煙海をぞめ<br>商家の軒は日をおおう<br>げにも五港の一つとて<br>戸数万余の大都会 | 49.<br>波路やすく直江津に<br>かえりてきけば越中の<br>伏木にかよう汽船あり<br>いざ乗りかえて渡海せん |
| 47.<br>新潟港を舟出して<br>海上わずか十八里<br>佐渡に名高き釜山を<br>見てかえらんも益あらん | 48.<br>春には真野の山ふかく<br>順徳院の御陵あり<br>松ふく風は身にしてみて<br>袂しほらぬ人もなし   |

※合計72番より一部抜粋

